

撤退田圃

いなだそういちろう

稲田宗一郎

2020年 春

「買い取り価格が1俵8,500円では安すぎます。何とか10,000円、いや9,500円に引き上げてくれませんか？」

賢一は大崎にあるロイズ本社にいた。

「曽根さん、それは無理だよ。あんたも、コメの価格が下落したのを知っているだろ。8,500円が精いっぱいだ」

ロイズのコメ仕入れ担当の酒井が冷たく言った。

コメの価格は2015年の TPP の合意と2018年の生産調整の廃止以降急激に下落した。2015年の TPP の合意を受け、アメリカからの輸入米は、ミニマムアクセス米を含め2020年には85万tに達していた。さらに、2020年に、政府は財源不足を理由に今まで奨励していた飼料米の補助金を削減し、農家の手取り価格は5万円程度まで下がっていた。

「8,500円なんて到底受け入れられませんよ。これじゃ採算割れですよ」

賢一は、2014年からP県名島市の農地を機構から借入し、ロイズファームと共同出資して農業生産法人ライスランド名島を経営していた。

「曽根社長、あんたの持っているP県のコシヒカリの相場が幾らか知っているのですか？ 8,000円だよ、8,000円。こっちは500円高く買おうって言っているのですよ。魚沼のコシヒカリだって14,000円がやっとの時代ですよ」

「そんなのわかっていますよ。それでは、うちの姫こまちを去年の11,000円から10,500円に値引きするから、P県のコシヒカリは9,500円で引き取って下さい」

「無理だね、うちが共同出資している農業法人は全国にいくつもある。ある法人は1,000ha 規模の大規模法人だ。そこの法人ではコシヒカリを8,500円を出してくれるそうだ。ライスランド名島のコシヒカリが9,500円なんてありえないね」

「交渉の余地はないのですか」

「ない、まったくない、8,500円を飲んでくれなければ、君の所からコメを買わない」

酒井は表情を変えずに事務的に言い切った。

価格設定は本社の担当役員からの指示であり、酒井は単なる使いっばしりで、交渉権は与えられていなかった。

「他の代替案はないのですか？ 8,500円じゃコメ生産を続けられませんか」

「それは、君の経営手腕がないからで我が社には関係がないことだ。コメの相場が下落することは君だって予測できたはずだ。その対策を講じなかったのは君の経営責任だよ」

酒井は賢一の目を真っ直ぐに見て、冷めた表情で本社役員から言われ

てきた文言を言った。

「ビジネス的には、わが社は、君の農業法人に40%出資しているだけで、君の法人から全量コメを買う単年度契約をただけだ。契約書にもあるように購入価格は毎年相談となっている」

酒井は何の感情も示さずに事務的に続けた。

「こちらの調べではライスランド名島の累積赤字は4,000万円程度ある。今後、米価が上がるとは考えにくい。曾根さん、ここで、ライスランド名島は閉めて、あなたは、地元の農業法人経営に専念してはどうだろうか。わが社は、赤字を含めライスランドの経営を引き受ける。もちろん、ただじゃない。あなたの出資金600万円を300万で買い取る。償却が終わった農業機械を売却したところで赤字を補てんできる金額で売れるわけではないし、君の実質的損失は300万で済む。悪い話ではないと思うけどな」

「……………」

賢一のまわりには酒井の声だけが流れていた。

「エッ、ライスランド名島をロイズファームに譲る？ 賢一、本気か？」

宮島は驚いて聞き返した。宮島は賢一のリゾン同期入社組の一人では取締役になっていた。

「ロイズはライスランドを4,000万の赤字を含め300万で買い取ってくれる。300万は俺の出資金の半値だ」

「お前は、その話を受け入れたのか？」

「アー、先週契約した。だから、お前に報告にきたんだ。お前には俺の「あらふね」のコメをリゾンに販売したときに世話になったからな」

「ライスランド名島を手放す以外に方法はなかったのか？」

「米価が8,500円を割ったらどうやっても無理だね。特に俺のような100ha程度の規模の法人ではね。米価下落が俺の予想より3年早かった。国の政策も腰砕けだし、相変わらず70歳を超えた団塊の世代が帰農し、孫向け、健康のためにコスト割れ覚悟でコメを作っているからな」

賢一は戸惑った様子で言った。

「確かにな、お前のところもそうか、実は、俺のところのリゾンアグリの直営農場も目標の5,000haには全く届かずやっとなら2,000haだ」

「リゾンアグリもそんなもんか」

宮島は少し考え、声をやや低くして賢一の耳元で囁いた。

「賢一、でも少し変なんだ。経営陣はそんなに深刻じゃないんだ」

「……………」

「俺も知らなかったのだが、2013年から始まった産業競争力会議の農業改革には、政府と大手企業との間に暗黙の了承があったらしい」

と宮島は話だした。

宮島の話

——規制改革会議の農業・農協改革は、大手商社、大手不動産会社、大手都市銀行と連携して推進してきたらしい。これらの大企業は農業分野に競争原理を導入することを「錦の御旗」として政府に働きかけ、大企業にメリットのある政策を打ち出してもらったらしい。規制改革会議の初代農業部会議長がロイズの浪川だったことを思い出せばいい。浪川を推薦したのは彼の出身母体の三東商事だ。

大企業グループは2000年に入ってから徐々に農水省に近づき、01年に農協法の一部を修正させ、農業政策の対象を兼業農家を含む単なる農家から担い手などの大規模農家に集中させた。もちろん、我が社もその動

きを敏感に察知し、そのころから農業分野への参入を検討し始めたらしい。セヴン・ナインにしてもロイズにしてもしかりだ。もともと、彼らは、日本の農業なんてどうでもいいんだ、ただ、安い農産物を仕入れたいのだ。そのために、自社がより儲かるサプライチェーンを作るのが目的で、目の上のたんこぶで企業努力もせずに90兆円も金を集めている農協を潰すことが狙いなのだ。

さらに、彼らがしたたかなのは、最終的な狙いは農地ってことさ。耕作放棄地に課税することにより農地を土地市場に吐き出させ、農地法改正で農地を所有できる法人の名前を「農業生産法人」から「農地所有適格化法人」に変更したことからもわかるように、大手企業グループは農地売買も可能にしたのだ。

賢一のライスランド名島だって、もとは農家の耕作放棄地だろ。うちのリゾニアグリだってほとんどが耕作放棄地だ。農地法改正で農地売買や農地転用が緩くなり、耕作放棄地に集配センターや野菜工場の建設が可能になったのを見れば、彼らの狙いはほぼ達成したと考えられる。工場や集配センターが建設されれば周りの地価は上がる、さらに、立地条件が良ければ、農地転用条件も緩くなっているから、転用から売買への土地ころがしも可能になる。彼らの狙いはここなんだ。

ロイズが賢一のP県の法人を赤字込み300万円で買うと言ったのは、決して善意ではなく、ビジネスからみて投資と判断したからだ。

「宮島、そんなことがあったのか？」

田舎暮らしの賢一には宮島の話は企業小説のように聞こえた。

「アッ、俺も驚いたよ。ところで、賢一の名島市の農場は何haあるんだ？」

「18ha だ」

「場所は常総自動車道の名島インターの近くじゃないか？」

「車で10分くらいの少し北側のところだ。2011年の原発事故の後、P県産農産物は風評被害で価格が下落し、コメも買い叩かれた。そのあと貸し手の農家はコメ作りをやめ2014年から俺がロイズと一緒に機構を通して借りたんだ」

「インターから10分な。やっぱりな」

宮島は頷きながら

「ところで、ライスランド名島の役員にはお前とロイズファームの他に誰がいる？」

と聞いてきた。

「2名いる。そのうち1人の役員が農作業に従事している。地元の元農家だけだな……………」

「そうか、やっぱりな。ロイズさんはしたたかだ。農地法の改正で、農地を所有できる法人の要件、具体的には、役員のうち1人以上が農作業に従事すればよい事になったことを利用したんだ」

宮島はそういう情報に詳しかった。

「どう言うことだ？」

「いいか、賢一、ロイズはライスランド名島を通して地主から18haの農地を購入し、その農地に、コメ、麦、キャベツ、イモなどを作り、それぞれを4ha以下の「農地所有適格化法人」に分社化する。その後、時期を見て、それぞれの法人が農地転用を申請するはずだ。農地転用制度の変更で4ha以下の農地転用申請が緩和されたからだ。農地転用が許可されれば、集配センターや野菜工場の建設も可能だし、場合によっては、これらの用地として転売すればよい、ロイズは利益がでるはずだよ」

「しかし、国はなぜそういうことを黙認するんだ？」

「国は市場経済を徹底したがつている。徹底したいと言うよりも市場経済を導入しなければ日本は世界の中で生き残れないと信じているから

だよ。この動きは、いまに始まったわけではなく、小泉政権あたりから強くなり、安倍政権でその路線が確定したんだよ」

「……………」

宮島の冷静な声が続いた。

「賢一、お前だって今の農業政策に賛同したから法人経営で規模拡大に突っ走ってきたんじゃないのか？」

宮島の言うとおりであった。賢一は国の政策を活用して規模を拡大してきたのだった。しかし、宮島が指摘したような農地の転売など全く考えなかった。ただ、コメのコストを下げるために、国の言うとおりでひたすら農地を集積してきたのである。言いかえれば、日本のコメ生産を守りたかったのであり、それが、「あらふね」で13代目の農家の跡取りとして生まれた宿命だと信じていたのである。

「宮島、どうやら、時代は、俺が知らんうちに大きく変わってしまったらしいな」

「そうみたいだ、国の中枢部と大手企業が組み、国益と言うスローガンのもとに、自分たちの都合のよい政策を作り上げる構造ができちゃったようだな。俺も、今回のお前の件で、今後、自分がリゾンの中でどう生きていくのか、しっかり考えてみるよ」

つづく